

戸塚区役所の屋上水田で 小学生がお米づくり！



戸塚小学校5年生（4クラス 149人）が、戸塚区役所8階の屋上水田（地上34m）で、JA 横浜や舞岡町の農家等の協力を得て、お米づくりを行います。

屋上水田でのお米づくりは、平成25年度に区役所が移転してから始まり、今年度で8回目になります。

屋上農園での1年間のお米づくりを通じて、小学生に農業への理解や地産地消への関心を深めてもらう取組です。ぜひ取材していただきますようお願いします。

1 田植えの実施

日時：6月3日（木）9：20～11：25

場所：戸塚区総合庁舎8階 屋上農園内の水田（約50㎡）
（戸塚区戸塚町16-17、JR・市営地下鉄戸塚駅徒歩2分）

※天候等により、順延・中止する場合があります。

※9月に稲刈り、10月に収穫したお米の脱穀・精米を行う予定です。



昨年の水田（8月）

2 前回（令和元年度）の様子



田植え（6月）



稲刈り・はざかけ（9月）



脱穀・精米（10月）

（裏面あり）

3 屋上農園の概要



屋上農園には水田の他、畑、壁面果樹園などがあります。

畑や壁面果樹園では、市民ボランティアが管理活動を行っています。水田の日常管理は南部農政事務所が行っています。

面積等	
水田	約 50 m ²
畑	約 40 m ² (9 区画)
壁面果樹園	プランター14 基
芝	約 145 m ²

4 屋上水田の特徴

(1) 不耕起栽培

屋上水田は、荷重の関係から耕土の厚さが通常の水田よりも薄く、通常の水田のような耕うん（耕す作業）や代かき（植付前の水田に水を入れ、機械等で土をかかはんする作業）ができません。また、深く掘ると下層の防水シートを傷め漏水の恐れもあります。そこで、不耕起栽培という耕うんや代かきを行わない、もしくは最小限しか行わない方法で栽培します。

(2) 環境にやさしい屋上水田

屋上水田は、昆虫、水生生物など多様な生きもののすみかとなり、良好な生態系、生物多様性の保全の一助となっています。また、植物による被覆や蒸散作用により、温度上昇の抑制やヒートアイランド現象の緩和等にも貢献しています。



5 取組の効果

前回（令和元年度）の活動は、南部農政事務所だけでなく、JA 横浜、舞岡町の農家、児童の保護者、屋上農園内の畑で活動する市民ボランティア等の協力を得て行われ、児童が自ら稲を育てて食べる体験を通して、農業への理解や地産地消に関する関心を深めました。また、活動を通じて、都心部の屋上の水田が、食糧生産だけでなく、環境保全や地域の人と人をつなぐ場としての機能も果たしています。

*取材対応について：取材の際は、6月2日（水）までに、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
 なお、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、検温・手の消毒・マスク着用をお願いいたします。



「横浜農場」について・・・

「横浜農場」は、食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場として見立てた言葉です。横浜市では、この「横浜農場」を使い、横浜の農業のPRを進めています。

お問合せ先

環境創造局農政部南部農政事務所長 綿貫 理 Tel 045-866-8490